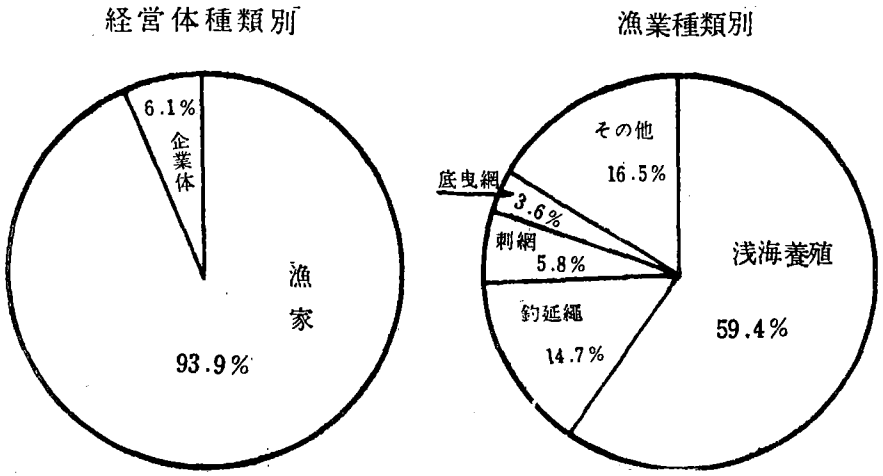
# 水　　産　　業

本県は太平洋に突出した半島で，海岸線 352 キロに及ぶ南東岸には暖流が流れ，多くの魚族が回游する自然要因に恵まれ，昔から全国屈指の水産県として知られている。

西部東京湾は，沿岸約80キロ浅海干潟を形成し，浅海養殖が古くから盛んである。然し近年この方面に工場誘置等で干拓埋立が行われつつあるので，今後の漁業経営体は大きく変化するものと思われる。昭和33年調査の漁業経営体数は16 309あるが，比較的規模の大きい企業体は僅少で，漁家が94%を占め，漁業種類別では浅海養殖 59.4%，以下釣延縄漁業 14.7%，刺網漁業 5.8 %の順となつている。また漁業世帯数は 15 970 で全世帯の3.8 % にあたり殆んどが他の産業との兼業であり，総世帯員数は 9 万 6 千人である。

つぎに漁船総数は24 290隻，38 961 トンで，このうち海水漁船をトン数別でみると 5 トン未満が94.7%，50 トン以上の大型漁船はわずかに 72 隻に 過 ぎず，今後大型漁船による遠洋漁業の振興が大いに痛感される。

一方，海面漁獲高は32万 トンで全国第 3 位にあり漁類別では，いわし，さば，さんま，あじ等が多く，漁港別水揚高では銚子の54 310トンについで大原，天津，勝浦の順となつている。また，浅海養殖としての貝類，のりの収獲高は全国にもその名を知られ，戦前を上廻る状況にある。

**漁業経営体の内訳**